

聖ヨハネホスピス通信

ISSN 0919-0457



NO. 53

2010. 7. 1

発行 聖ヨハネホスピス

〒184-8511 東京都小金井市桜町1-2-20 TEL 042-388-2888

巻頭言	小穴 正博	… 1	ボランティアだより	福地 嘉江	… 4-5
研究所だより	近藤百合子	… 2-3	さくら会だより	関戸 信夫	… 5-6
チャリティーコンサート	吉川 訓子	… 3	「いのちを語る」講演会お知らせ		… 7
ホスピス点描	虎石 美保	… 4	平成21年度会計報告		… 8

巻頭言

私たちの聖ヨハネホスピスも今の病棟が開棟して16年がたちました。16年前には全国でホスピスは10カ所ほどしかありませんでしたので、他のホスピスがどのようなスタッフでどんなケアを行なっているのか、お互いに大体わかつっていました。しかし今のように全国で約200ヶ所もあると、名前さえ初めて聞くホスピスも決して少なくありませんし、どこのホスピスでも同じようなケアを行なっているのか、正直よくわからないのが実情です。

そういう背景の中で、3年前にご遺族へのアンケート調査が全国規模で行なわれました。これは、ご遺族の皆様に対して受けたケアを色々な観点から評価していただき、各施設間で比較することで、その施設で欠けていること、足りないことを把握し改善することで、結果としてホスピス全体の質を少しでも高めることが目的です。全国で100カ所のホスピスが参加し、ご回答頂いたご遺族は6000名にものぼりました。当時ご協力いただきましたご遺族の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。

この時私たちのホスピスが頂いた評価の中で最

ホスピス病棟 部長 小穴 正博

も点数が低かったのが「入院がスムーズに行なえた」という項目です。現状では電話相談から相談外来が約4週間、相談外来から入院までが約2週間程度で、確かに入院がスムーズとは言い難いのが実情です。この待機期間を少しでも短縮するために、最近ではまず一般病棟にご入院いただき、空いた時点でホスピスに移ることを積極的に取り入れたり、相談外来枠を増やしたりと工夫を重ねています。

さて、このたび第2回目となるご遺族へのアンケート調査を、この夏から秋にかけて行なうこととなりました。今回は平成20年末から平成21年に大切な方を亡くされた皆様が中心となります。前回の調査と比べて勝っている点、劣っている点、どんなことが挙げられるのか、通信簿をもらう小学生の時のような、楽しみでもあり不安でもあるという気持ちです。皆様からいただく評価を謙虚にうけとめ、よりよいホスピスを目指したいと思っています。ご面倒をおかけしますが、ご協力のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

研究所だより～歌を通した思い出～

聖ヨハネホスピスケア研究所 近藤 百合子

私にとって歌や音楽は、幼少の時からいつも身近に存在するものでした。うっすらとした記憶の中ですが、母におんぶされながら聞いた子守唄、そろさんや赤とんぼ、夕焼け小焼け・・・。小中学生時代はかつてのアイドル、ピンクレディやキャンディーズなどの歌謡曲を友達と声を張り上げて歌い、カトリック系の高校に通っていた頃は讃美歌や合唱曲を毎日歌うことが習慣でした。歌そのものが生活の中にいつもあったお陰で、鼻歌をはじめ歌うことは今でも私の日常です。現在もホスピスの病棟行事で患者さまやご家族の方々と色々な音楽に触れることや、童謡や唱歌を歌う機会が多く、また、リクエストがあればベッドサイドで患者さまと一緒に歌うこともあります。

私は昨年の5月末より研究所勤務となりましたが、現在も週2回、白衣を着て病棟で活動しています。ホスピス病棟で看護師として9年間勤務する中で、歌を通した患者さまやご家族の方々との思い出はたくさんあります。その中から心に残っている忘れられないエピソードをご紹介します。

深夜勤務の早朝でした。ある女性の患者さまのモーニングケアをお手伝いしていると、突然「何か歌って…」というご希望がありました。深夜帯は2名の看護師で対応するため他の患者さまからのコールも気にかかりましたが、歌うことは嫌いではありません。「何を歌いましょうか?」と尋ねると、「何でもいいわ」とニッコリ。私は、♪うさぎ追いし　かの山～♪と、『ふるさと』を独唱しました。歌ったはいいものの深夜勤務の終盤で少々馬力も失っていたので声はかずれるし音程は外れ、それは酷いものでした。にもかかわらずその患者さまは穏やかな表情で静かに聴いてくださいり、歌い終わると「もう1曲歌って…」と再度リクエストが…。上手く歌えないことに申し訳なさを感じつつも、折角なのでリクエストにお応えし、♪わ～らべ～は見たり～野中のば～ら…♪と『野ばら』を熱唱！　肝を据えて歌えば案外気持ちよく歌えるものです。患者さまも「ありがとう」と微笑んでくれました。その笑顔と“ありがとう”的言葉に私の方が癒され、素直に“歌って良かった…”と思ったことを思い出します。今振り返る

と、「何か歌って…」という言葉には、「もう少し傍にいてほしい…」という思いも秘められていたのではないかと思います。ホスピスにご入院中の患者さまは、穏やかな生活が送れることを願う中で、不安や孤独、心細さと向き合いながら過ごしている方も少なくありません。「看護師さんはいつも忙しいからわがままを言っては申し訳ない」と気兼ねや遠慮をされる方も多いですが、「少しでいいから“今”一緒にいてほしい…」という瞬間もあるのだと思います。患者さまが発する言葉の裏に秘められたメッセージを聞き逃さないこと、そしてこれからもご要望があればいつでも応えていける姿勢を忘れないでいようと思います。

また、日勤帯で、ある患者さまを担当しご挨拶に伺った際、私は「今日、何かしたいこと、私にして欲しいことなどはありますか?」と尋ねると、「気持ちに元気が出なくて…」とおっしゃるのであります。耳元で「何か1曲歌いましょうか?」と声をかけると、「看護師さん歌が好きなの？　じゃあ何か歌って…」と言いながら、一瞬でしたがその方の目の輝きを感じました。咄嗟に浮かんだ曲は季節にちなみ『春が来た』。小さめの声でゆっくりと歌い始めると、優しい眼差しで私の目をじっと見つめ、頭でリズムを取りながら途中1フレーズだけでしたが口パクで一緒に歌われました。歌を通して心がひとつになった思いを実感し、歌や音楽の力、素晴らしさを改めて感じることができました。心や体に元気が出ないときに、ほんの一瞬でもホッとする時間をお作りすることができるよう、そしてホスピスで過ごす時間が少しでも穏やかでありますよう祈りつつ、これからも歌や音楽をケアの中に取り入れながらお手伝いさせていただきたいと思います。

歌や音楽は、言葉に勝るメッセージを伝え合い、心の交流を図ることを可能にしてくれる凄さを持っていることを感じます。『ふるさと』や『野ばら』『春が来た』を聴いたり口ずさむたびに、その時に出会った患者さまとの思い出や出来事が蘇り、いつも新鮮な思いになります。これまで出会った患者さまやご家族の皆様と共に歌や音楽に触れ合う中で沢山の思い出をいただけたことに感謝し、

これからも歌を通した心の交流を大切にていきたいと思います。レパートリーを増やせるよう、

ひそかに練習している今日この頃です。

♪ チャリティーコンサート ♪ 温かいご支援ありがとうございました

「風の仲間」ボランティア 吉川 訓子

去る5月7日夜、武蔵野市民文化会館においてパイプオルガン・チャリティーコンサートが開かれました。聖ヨハネホスピスのためのささやかなお手伝いをと、ボランティアグループ「風の仲間」が企画、主催したものです。

当日は小雨の降る中、大変多くのお客様がお越しくださいり、会場をほぼ埋め尽くしました。企画、準備、会場運営すべてをボランティアの手で行つたため、上手な運営ができるかと一抹の不安もありましたが、お客様たちのこぼれる笑顔にホッとしたしました。

聖ヨハネホスピス音楽療法士のオルガニスト、米沢（鎌木）陽子さんとソプラノ歌手矢崎陽子さんをお迎えしてのステージ。プログラムは、米澤さんによる語り、「ホスピスでの音楽風景」もはさみながら、ドイツ・バロック時代の作品を中心に、ロマン派、現代の作品も織り込んで展開されました。パイプオルガンの調べが、しっとりと会場を包みこみます。パッヘルベルのシャコンヌ へ短調、バッハのトッカータとフーガ 二短調など、オルガンの魅力が存分に拡がり胸を打ちます。折しも、5月7日当日はブラームスの誕生日もあり、彼の作品「11のコラール集」から《装いせよ、おお、わが魂よ》、ドイツレクイエムより《あなた方は今、悲しみを抱いています》が厳かに演奏されました。

ドイツレクイエムとモーツアルトの《アレルヤ》では、ソプラノ歌唱も加わり、美しく華やかな旋律が客席を魅了しました。ウェッバーの《ピエ・イエズ》が流れると、その歌声とオルガンの響きに抱かれながら、魂が穏やかにやすらいでいきます。最後のアンコール曲、ピエトロ・マスカーニのアヴェ・マリアは聴衆の心にやわらかにしみ入り、身も清らかに心の平安へと導かれる心地でした。その余韻に包まれて会場を後にするお客様たちの表情に、わたしたちも心から安堵いたしました。全くの善意でご出演くださいり、素晴らしい感動を与えてくださったお二人に感謝の想いでいっ

ぱいです。お二人から「とても温かい雰囲気の中で演奏、歌唱できてうれしかった」という言葉もいただき、私たちも感無量です。

会場やホワイエで、お客様同士、またお客様とスタッフの知己、友人同士が久し振りの思わぬ再会に笑顔のはじける光景が、ここそこに見られました。そんな情景に周囲の私たちにまでも、笑顔の輪がひろがりました。ホワイエにて募金のお願いもいたしましたが、ほんとに多くの善意をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。皆さまの温かいお心に、スタッフ一同胸が熱くなりました。会場に足を運んでくださった方々、チケットを購入して下さった方々、ご寄付をくださった方々、温かい応援で支えてくださった方々、すべての方々に厚くお礼申しあげます。過日、収益金 70万円を、ホスピスのためにお使いくださいるよう、社会福祉法人聖ヨハネ会にお届けしました。

準備から開催当日まで、多くのボランティアが知恵と労力を出し合い、好評のうちにコンサートを終えられたことに、胸をなでおろしています。そしてこの過程で多くの仲間に支えられた幸せ、多くの篤いお心にふれることができた幸せを、何よりうれしく思います。ありがとうございました。

また、来年もチャリティーコンサートの開催を予定しております。引き続き、ご協力、ご支援くださいますよう心よりお願い申し上げます。



矢崎さん 米沢さん

ホスピス点描

看護師 虎石 美保

高校2年の夏、入院することになりました。一ヶ月半の入院生活で、私はある看護師さんと出会いました。内科病棟の大部屋に一人、周りの人よりもかなり年齢が若い私。安静にしていることが病気を治すために大切なことでしたので、いつもベッドにいました。また私は、その夏所属していたバスケット部の合宿にいけず、この合宿は高校最後の合宿で今後部活を引退し大学受験に備えなければならない時期であったため、窓際のベッドの上できっと冴えない顔をしていたのではないかと思います。そんな私をその看護師さんは気にかけてくれて、お話を来てくれたり、本を貸してくれたりしました。

いつしか私は、私も元気にならば看護師になります、この看護師さんがしてくれたように今度は私が患者さんの心を励ましたり勇気づけたりしたい、と思うようになりました。私はこの看護師さんに支えられていたのだと思います。そして看護

師さんが私に傾けてくれた気持ちによって、私の人生が変わったのでした。

看護師を志してから20年、多くの患者さんたちと出会い、人生の一部に関わらせてもらっています。ホスピスにこられる患者さんは体に辛さを感じていたり、今までの様々な体験からいろいろな思いを持っていたりします。患者さんと関わる時間は限られていますが、関わり方によっては、患者さんの体と心を穏やかにできることは過去の自分の体験で知っています。それを私が患者さんに出きているかは疑問ですが、私は、そんな患者さんの体と心が少しでも穏やかになるように、喜びや辛さ、楽しさや悲しみをともに分かち合えるような心を持ってお手伝いできたらと思います。患者さんから教えられることはいっぱいあり、かけがいのない時間をともにいさせていただいているこの出会いに感謝します。

ボランティアだより 木曜ボランティア 押し花の活動

ボランティア 福地 嘉江

ホスピスの玄関を入って、まず目に留まるのは花。花は堂々とした花瓶からテーブルの小さな花瓶まで、ホスピスの庭に植えられた四季折々の花で飾られています。時には患者さんのご家族やホスピスを応援してくださる方の贈り物として届けられることもあります。花たちはホスピスの四季と共にあります。春先にホスピスの庭の芝からひょっこり頭をもたげるクロッカス・福寿草。春の訪れは黄色からというように、黄色の花々が顔を出し、次々に人知れず咲き出し、みんなに花の声を…香りを届けてくれます。

常に花が絶えないように心を傾けるボランティアの人たちによって、花たちはそれぞれの時、それぞれの色合いで咲いています。それらの花々を木曜ボランティアたちは、押し花にします。飾られた後、そっと花を厚紙にはさんで仕舞います。一枚一枚花びらをピンセットでとり、おしゃべ・めしゃべ・がくにいたるまで、厚紙にのせます。その

後、重みを加え、押さえ、1~2週間おき、水気をとり、花の色がそのまま留められるようにとの思いを込めて、待ちます。すると、なんともいいようのない美しい押し花が誕生します。

その押し花たちは、今度木曜日の午後、ラウンジで患者さん・ご家族の手により新たにポストカードになりしおりになります。ラウンジでの押し花の時間、患者さん、ご家族がおそるおそるとまどうようにカードに花を置き、迷いながら次の花を選び、花たちが作り出す色のハーモニーにうれしそうな顔をされる時、私たちボランティアもそつとうれしくなります。

ある患者さんは散歩に行った折に落ち葉をたくさん集め、ご自分の本にはさみ、押し花を作ってくださいました。ある時、「押し花の時間に使ってね」と大切なご本の間からティッシュに包まれた落ち葉を差し出されたこともありました。花たちは、押し花になりまた別の顔を見てくれ、

患者さん・ご家族そして私たちの心の中に仕舞われます。

こんなふうにお手伝いしているのが、木曜ボランティアの押し花の活動です。ホスピスと花…い

くとおりにも表情を変える花たちがみんなの心をやさしくしてくれているのでしょう。押し花の活動はこれらの花と思いとともににあるのだと思います。



さくら会だより あらためて、さくら会の7つの活動を紹介します

聖ヨハネホスピス さくら会 世話人代表 関戸 信夫

さくら会では、平成6年の発足から平成14年度までは、ホスピスからの依頼を受けて、毎年、会の活動報告を「ホスピス通信」に掲載していました。その後、ホスピスからの依頼がなかったことと、さくら会の方で会誌「さくら」の発行を始め、その紙面で年度毎の活動内容を掲載していましたので、敢えて「ホスピス通信」への掲載をお願いしてこなかった経緯があります。しかし、そのことが新しくホスピスの仕事に携わるようになった方々に、さくら会の存在がわからないものに映るようになったのでしょうか。時々、「さくら会って何をしている会なの？」と尋ねられることあります。このたび「ホスピス通信」への原稿依頼を受けましたのを機に、さくら会のこれまでの活動内容を行事ごとに報告いたします。

さくら会では、これまでできるだけ多くの会員の方々が交流できる機会を作ることを主にして、行事を計画してまいりました。その内容は次の通りです。

1) 新人会員の懇親会

入会1年目の会員を対象に毎年開いている懇親会です。新人会員の数は、年度により差がありますが、30名から50名です。一回の懇親会の人数を15名位としていますので、毎年2・3回に分けて開催しています。会の発足から今年までの16年間の開催回数は38回となります。この懇

親会は、新人会員にとって最初の集まりであり、何となく重苦しく不安な気持ちで出席される方が多いようです。しかし、ホスピスの医師や看護師さんも出席されて、お互いの体験や気持ちを本音で語り合っているうちに心も和み、瞬く間に閉会と時間となります。帰り際に、「今日は思い切って出席して良かった」と笑顔で言われ、その言葉に世話人の方が逆に励されます。

2) 小さな懇談会

さくら会では通称「ちいこん」と言っている会で、伴侶を亡くされた男性会員または女性会員、親、子供など、故人との続柄別に分けたり、入会年度別に分けたりして開催している懇談会です。平成14年度より始め、年に2・3回ずつ実施し、昨年度までの19回開催しました。今年度も3回開催する予定です。

3) 一泊旅行

この旅行会は平成8年から毎年実施してきた行事で、平成21年度で14回目となりました。1回目は、全員新宿集合で箱根湯本へ出かけましたが、その後は、新宿出発のバス旅行が6回、現地集合で7回、箱根湯本と熱海の両温泉へ交互に出かけました。旅行にはホスピスの先生方や看護師さんたちにも、ご多忙の中、宴会の始まる夕方7時までに馳せ参じてもらっています。勿論、今はケアタウン小平におられる山崎先生には、14回

皆勤で参加してもらっています。

4) 小金井公園へのピクニック

「一泊旅行には参加できないけど、日帰りのピクニックなら参加できるのに…」という会員からの声を受けて、平成14年度から始めた行事で、以後、毎年実施しています。ピクニックと言ってもご高齢の方もおられるので、まずは近場の小金井公園で、各自弁当持参で集まり昼食を共にしながら会談しましょうというところから始まりました。昼食会は持参の弁当を開けるまもなく、どこからともなくお手製の料理や差し入れのお菓子が回り始めます。また、会員の中に茶道の先生がおられて、その方のご好意で、ここ数年は野立てを楽しんでいます。11時30分に集合15時で解散。楽しい時間は一瞬にして過ぎ去ります。毎回、30名から40名の参加者があります。

5) 講演会

講演会はさくら会の発足2年目から始めて平成19年まで13回開催しました。平成14年度に開催した第8回の講演会までは開催記事を「ホスピス通信」に掲載していますので、第9回以降についての講演者と演題を報告いたします。

第9回 村田久行氏 「聞くことの援助的意味—傾聴ボランティアの実践から—」

第10回 船本弘毅氏 「愛のまなざしの中で」

第11回 佐藤初女氏 「心を分かち合う」

第12回 山崎章郎氏 「地域で生きる処方箋—ケアタウン小平の取り組みから—」

第13回 大熊由紀子氏 「安らかな死と誇りある生」

講演内容については、第9回から第12回までは、会誌「さくら」のナンバー6~9に、第13回は「聖ヨハネホスピスさくら会」のホームページに掲載されています。なお、講演会の開催は、誠に申し訳ありませんが、事情があって平成20年度以降休止にしています。

6) 会誌「さくら」の発行

さくら会の会誌「さくら」は、世話人会内の有志により編集班を設け、そのメンバーの努力によって平成12年度に第1号を発刊、以後、平成20年度の第9号まで毎年発行し続けてきました。しかし、さまざまな事情により、残念ながら平成21年度より休刊せざるを得なくなりました。その理由の一つは原稿が集まらなくなつたことです。

原稿が確保できれば、発行の再開も可能になるとと思います。皆様からの原稿を節にお待ちしています。

7) ホームページの開設

最後に、昨年開設したさくら会のホームページについて、世話人会で担当しておられる松田宏さんに書いてもらいましたので、そのまま下記に紹介いたします。

平成21年2月からさくら会のホームページを開設しています。一般の方々のための公開ページと会員専用のページに分かれしており、桜をイメージした薄いピンク色を基調にしています。一般向けのページでは、さくら会の歴史、会員の状況、活動の内容の他、ホスピスでお世話になった方々から寄せられたお手紙、会員の方から寄せられたホスピスにまつわる思い出の写真や絵画、スケッチ、詩、俳句などを紹介しています。今後は会誌「さくら」のバックナンバーの一部もご紹介する予定です。会員の専用ページでは、さまざまな行事の様子などを写真中心で掲載しています。なお、会員専用にはパスワードをかけてあり、会員の方だけが見ることができるようになっています。他に、世話人だけが見ることができる世話人専用ページもあり、行事計画や議事録などを掲載しています。アドレスは、

<http://www.ab.cyberhome.ne.jp/~sakurakai/>
ですが、「聖ヨハネホスピスさくら会」で検索することができます。



※5~6ページの花やホスピスの風景写真はさくら会HPに掲載のものを撮影者に承諾をいただき掲載しました。

ケアタウン小平&聖ヨハネホスピスケア研究所 主催

第5回 講演会のお知らせ

演題 「青木新門 いのちを語る」

日時:平成22年9月9日(木) 14:00~16:00



会場:ルネコだいら大ホール 参加費:3,000円 定員:1,200人

プログラム: 1.講演 青木新門 氏

(作家、映画「おくりびと」原案者、「納棺夫日記」著者)

2.対談 青木 氏、山崎章郎 医師

申込み方法:

以下の方法のいずれかでお申込み下さい。 折り返し、参加費の納入方法をご連絡します。

A) ファックス B) 郵送(必ず80円切手をご同封下さい) C) Eメール

いずれの方法でも下記の5つの必要事項と、「講演会希望」とご明記下さい。

必要事項:①お名前(フリガナ) ②郵便番号 ③連絡先ご住所(ご自宅又は勤務先)
④お電話番号/FAX番号(ファックスでお申込みの方は必ず) ⑤ご職業

申込み期限 2010年 8月24日(火)まで

ただし、8月24日以前に定員になりましたら、締め切りとさせていただきます。

申込み先:聖ヨハネホスピスケア研究所 講演会受付係

〒184-8511 小金井市桜町1-2-20 TEL 042-380-7820(平日13時~17時)
FAX 042-380-7826(24時間)

Eメール : inotiwokataru2010@yahoo.co.jp

聖ヨハネホスピスのよりよい運営のためにご支援ください

社会福祉法人聖ヨハネ会は、ホスピスのよりよい運営のために皆様からのご援助をお願いしております。ご援助下さった方々には、今後この通信(年に二回発行)を通して連絡させていただき、ともにホスピスを育てて頂きたいと願っています。一人でも多くの方々がご援助下さることを心よりお願い申し上げます。
ご支援の受け入れ口座は以下のとおりです。

銀行振込 東京三菱銀行 小金井支店 NO. 4127570
口座名 社会福祉法人聖ヨハネ会(普通預金)

郵便局振込 口座番号 00190-7-711126
加入者名 社会福祉法人聖ヨハネ会
(振込用紙の通信欄に“ホスピスのために”とご明記ください。)

お問い合わせは…〒184-8511 小金井市桜町1-2-20
社会福祉法人聖ヨハネ会本部事務局 TEL 042-384-4403

平成 21 年度寄附金への御礼と使途内訳についてのご報告

単位：円

項目	金額	前年比	内訳
平成 21 年度寄付金 雑 収 入 合 計	9,775,115 0 9,775,115	323,685 323,685	個人寄付金、団体寄付金、 清掃委託費、 Vo コーディネーター常勤 1 名人件費他 通信運搬費、印刷費 ボランティア活動備品材料費、さくら会活動補助費 造園委託費、物品費、保険料、雑費
平成 21 年度使途金	5,849,700 6,930,000 3,166,304 346,770 1,459,408 1,031,250 計	△203,360 542,500 △572,075 20,290 △92,985 151,325 18,783,432	独立行政法人福祉医療機構「病院会計繰入」 清掃委託費、 Vo コーディネーター常勤 1 名人件費他 通信運搬費、印刷費 ボランティア活動備品材料費、さくら会活動補助費 造園委託費、物品費、保険料、雑費
平成 21 年度繰越金 合 計	△9,008,317 9,775,115	2,457,181	法人本部より繰入

平成 21 年度も、上記のように皆様から多額のご支援を頂戴しこれを活用させていただきました。本当にありがとうございました。赤字に対しましては、法人本部より繰入、決算とさせていただきました。

多くの団体が、寄付金が少なくなっていると言われる中で、多額ご寄付をいただき感謝しております。ホスピスでしかできない患者様・ご家族への看護とケアに日々努力してまいりたいと思っております。真のホスピスマインド・心のケアを大切に患者さまと関わっていきたいと思っております。今後とも、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

社会福祉法人聖ヨハネ会 事務局

【編集後記】

- ★悲しい辛いニュースの多いなかでひとりひとりの力をあわせて何かをするときに、大きな愛が生まれるのを感じます。(I)
- ★『ホスピス文庫』には、童話や絵本も充実しています。時には子供の心に返るのもいいかも。(S)
- ★今年も「いのちを語る」講演会が開催されます。青木新門さんの納棺師としての経験から語られる「いのち」とはどのようなお話なのか、また納棺師と医師の対談というのもとても興味深いです。読者の皆さんも是非ご参加下さい。(N)